

道徳教育と道徳の時間の授業づくり

1、道徳教育の目標と内容

道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度 などの道徳性を養う。

2、道徳の時間の授業

(1) 授業づくりのポイント

○読み物資料を使った授業のポイント

- ・登場人物を通して自分の心を語る。
 - ・展開の部分では児童が登場人物になりきって考える。
 - ・資料は教師が読む。
 - ・子どもに発問して考えさせる。
 - ・中心発問に時間をかける。基本的な発問は多くなりすぎないように。
- 本時の主題、内容項目、ねらいと一致させる。
- ・子どもの発言を受け止めて、返す。
 - ・子どもに押しつけをしない。

○資料の分析

- ①変化したのは誰なのか。(→主人公)
- ②どんな出来事で変化したのか。(助言)
どのように変化したのか。(before-after)
- ③どこで変化したのか。(中心場面)

(2) 考えを深めるために

道徳は、児童のみでなく、**教師自身の課題**である。児童に教え込もうとするのではなく、教師自らが児童と共に考え、悩み、感動を共有しながら、学んでいこうという姿勢で授業に臨むことが大切である。

また、学級での日常生活においても教師の道徳的な在り方が求められる。

○子どもの発言を受け止めて返す

- ・子どもの発言の底にある、いろいろな思いを引き出す。
「もう少し詳しく聞かせて」「〇〇ってどういうこと？」
「どうしてそう思ったの？」
- ・考えを深める発問（「補助発問」「切り返しの発問」「追発問」）を考える。
- ・「挙手」だけでなく「指名」もする。

チェックして確認してみよう

1、ねらいを確認し、指導の要点を明らかにする。



- 年間指導計画に示されている主題名とねらいを確認する
- 学級の実態を考慮し、指導の要点を明らかにする

2、資料を吟味する



- ねらいとする道徳的価値がどのように含まれているかを考える
- 資料をどのように活用すれば、ねらいに迫ることができるか考える

3、中心的な発問を考える



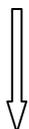
- 発問を「主題」「内容項目」「ねらい」と一致させる
- 行為を問うのではなく、行為を支える「ところ」を問う
- 多様な考えが出てくるような問い方を工夫する
- 中心的な発問を生かすための前後の発問を考える

4、学習過程を考える



- 児童の感じ方や考え方を予想しながら授業の「展開」を考える
- 「展開」をより活かすための「導入」「終末」を考える

5、板書計画をたてる



- 学習の流れを視覚的に整理できる板書にする

6、事前事後の押さえや指導について考える

- 体験活動や日常的な指導、各教科等での指導との関連を考える
- 事前の実態把握や事後の指導、家庭や地域との連携を考える

学習指導案 作成例

道徳学習指導案

1、主題名 「 」 道徳の内容〇— (〇) 「 」

2、日時

3、学級

4、場所

5、資料名 「 」(出典：)

6、主題設定の理由(主題について)

(1) 価値について(価値観)

主題で取り扱う内容項目に関わる価値に関する指導者の考え方

(2) 児童観

その内容に対する児童の道徳性や学級内での実態

(3) 資料について(資料観)

その資料に対する指導者の見解、指導上の着眼点

7、ねらい

主人公の・・・を通じて、・・・しようとする 道徳的〇〇を育てる

(資料の活用を簡潔に) (内容項目から引き出す) (道徳性の要素を入れる)

8、本時の展開

	学習活動	発問と予想される 子どもの反応	指導上の留意点
導入	◎今日の資料にか かわりのあること について、関心をも つ。	〔学習への動機づけ〕 (発問例)「〇〇したこ とあるかな？」 (反応例)「〇〇」	○これから扱う資料に、子ど もたちの興味関心が向くよ うに。 ○資料についての予備知識 が必要なときは説明。 ○価値に触れる発問をしす ぎないように。
展開	◎担任による資料 の範読を聞く。 ◎登場人物の心 情・判断力・実践意 欲等について考え、 発表する。	〔資料を使って道徳的 価値を追求把握〕 (発問例) ＜道徳的心情を考える ために＞「主人公はどん な気持ちだったでしょ う？」 ＜道徳的判断力を見極 めるために＞「主人公は どう考えて決心したの でしょう？」 ＜道徳的実践意欲をは かるために＞「主人公は どうしたいと思ったの でしょう？」 (反応例)「〇〇」	○資料を範読する。 ○基本的ストーリーを確認 する。 ○行為(どうすべきか)を問 うのではなく、原則として行 為を支える内面(こころ)に ついて問うようにする。

		<p>中心的な発問 (反応例)「〇〇」</p> <p>「考えを深める発問」 (反応例)「〇〇」</p>	<p>○中心的な発問では子どもたちが特に多様な考え方や感じ方を発表できるように「考えを深める発問」等も工夫し、価値観を深く広く把握できるように配慮する。</p>
終末	<p>(学習内容のまとめ)</p> <p>◎担任からのメッセージを受け止める。</p> <p>◎この時間に考えたことや感じたことを書く。</p>	<p>〔道徳的実践力の育成〕 (終末例)</p> <p>◇偉人による本時のねらいに適した名言を紹介。</p> <p>◇本時のねらいに適した歌詞の曲を聴く。</p> <p>◇担任のこれまでの経験等からねらいに適したエピソードを語る。</p>	<p>○学習の充実感を大切にしながら、学習内容が心にしみ渡るような、余韻のある終末を。</p> <p>○深められた価値について押しつけにならないよう、実践への強要はしない。</p> <p>○必要に応じて感想を共有する。</p>

9、評価

(どんな手段で児童の心の動きなどをとらえるかを示す。数値などによる評価は行わない。自らの指導を評価するとともに、指導法の改善などに努めることが大切。)